

## 地域医療支援病院業務報告要旨

### I 概要

病院名	フリガナ	コクリツケンキュウカイハツホウジンコクリツセイイクリョウケンキュウセンター
		国立研究開発法人国立成育医療研究センター
所在地		東京都世田谷区大蔵 2-10-1
管理者氏名		病院長 笠原 群生
承認年月日		平成30年8月30日
業務報告書提出日		令和5年10月3日

### II 業務報告

対象期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
------	--------------------

#### 1 紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

承認要件	紹介率80%以上	
紹介率	$\text{①} / (\text{②} - (\text{③} + \text{④} + \text{⑤}))$	106.8 %
※患者数は延べ人数	①紹介患者数	14,102 人
	②初診患者数	25,246 人
	③地方公共団体又は医療機関に所属する救急自動車により搬入された患者の数(初診に限る)	3,382 人
	④休日又は夜間に受診した救急患者の数(初診に限る)	8,664 人
	⑤健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認めて治療を開始した患者の数(初診に限る)	0 人
逆紹介率	$\text{⑦} / \text{②} - (\text{③} + \text{④} + \text{⑤})$	72.1 %
※患者数は延べ人数	⑦逆紹介患者数	9,513 人

#### 2 共同利用の実績

共同診療件数	107 件
高額医療機器共同利用件数	48 件
共同利用病床数	7 床
共同利用病床利用率	0.0 %
共同利用施設・設備	MRI装置、X線CT装置、パントモ・セファロ、骨塩定量、放射線治療
登録医療機関数	350

3 救急医療の提供の実績 【(1)又は(2)のどちらかを選択すること】

(1) 救急患者数

救急搬送による救急患者数	4,588 ( 3,385 )
救急搬送以外の救急患者数	19,451 ( 9,121 )
合計(うち初診患者数)	24,039 ( 12,506 )

※括弧内は、初診救急患者数

(2) 救急医療圏(2次医療圏)人口における救急搬送患者数割合

A:救急用又は患者輸送用自動車により搬入した救急患者の数	3,382 人
B:救急医療圏(2次医療圏)人口※	1,475,635 人
C:A/B×1000>2	2.2 (少数点第1位まで記入)

※2次医療圏人口に関しては総務省統計局により実施された直近の国勢調査の人口(該当2次医療圏における区市町村人口の総和)を用いること。

(3) 救急用又は患者輸送用自動車所持台数

救急用又は患者輸送用自動車	2 台
---------------	-----

4 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

研修の内容	<p>1. 成育在宅医療懇話会：患者と家族が、安心して暮らせる地域を作るために、在宅等での医療的ケア全般についての基礎・臨床面での研究成果等の地域等への発信や、多職種との知識や意見の交流を通じて、医療連携の強化を図り、地域等における成育医療の発展に寄与することを目的に開催している。</p> <p>2. 成育臨床懇話会：周産期医療、新生児医療、小児救急医療などの成育医療全般についての基礎・臨床面での研究成果等を地域等に発信すると共に知識や意見の交流を行い、医療連携の強化を図り、地域等における成育医療の発展に寄与することを目的に開催している。</p> <p>3. 世田谷小児在宅勉強会：世田谷区近辺の地域医療を担う人材に対し、医療的ケア児の日常の健康管理を目的とした知識・技術について学べる機会としている。</p> <p>4. 小児在宅技術講習会：医療的ケア児の医療行為に着目し、在宅での緊急時対応や成長に伴い変更を要する医療機器の変更等について実技演習を通して学ぶ機会としている。</p> <p>5. 緩和ケアレクチャー：緩和ケアの分野で専門に活躍されている講師の方々を招き、他院や地域の小児医療従事者を対象として、小児がん等の終末期にある子どもにより良く過ごしてもらうための緩和ケア技術の向上を目的としたレクチャーを開催している。</p> <p>6. その他セミナー・講習をオンラインで実施(アレルギー、小児がんなど)</p>	
地域の医療従事者への実施回数		47 回
合計研修者数 ※院外からの延べ参加人数		20,331 人
研修体制	研修プログラムの有無	有 ・ 無
	研修委員会の設置の有無	有 ・ 無
	研修指導者数	8 人
研修施設	講堂、研究棟セミナー室、図書室、教育研修棟(大講義室、カンファレンス室)	

5 診療並びに病院の管理運営に関する諸記録の体系的な管理方法

管理責任者	院長	
管理担当者	情報管理部長	
診療に関する諸記録の保管場所	情報管理部、診療録管理室、電子カルテ及びカルテ庫	
病院の管理及び運営に関する諸記録の保管場所	共同利用の実績	放射線科
	救急医療の提供の実績	医事室
	地域医療従事者向け研修の実績	医療連携室、教育研修部□
	閲覧実績	医事室
	紹介患者に対する関係帳簿	医療連携室

6 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧責任者	院長		
閲覧担当者	患者相談専門職		
閲覧に応じる場所	財務経理部 財務経理課 医事室		
前年度の総閲覧件数	33 件		
閲覧者別延べ件数	当該病院に患者を紹介しようとする	医師	0 件
		歯科医師	0 件
	地方公共団体	0 件	
	その他	33 件	

7 委員会の開催実績

委員会の開催回数	4 回
委員会の概要	<p>第21回国立成育医療研究センター地域医療連携委員会（令和4年6月8日）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国立成育医療研究センターの活動実績報告（令和3年度第4・四半期）</li> <li>地域の医療従事者との研修等ご案内</li> <li>講義：「排便障害」</li> </ol> <p>第22回国立成育医療研究センター地域医療連携委員会（紙面発送による開催）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医療連携医登録状況</li> <li>国立成育医療研究センターの活動実績報告（令和4年度第1・四半期）</li> <li>令和4年度院外向け研修会実績及び予定</li> </ol> <p>第23回国立成育医療研究センター地域医療連携委員会（令和4年11月5日）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国立成育医療研究センターの活動実績報告（令和4年度第2・四半期）</li> <li>地域の医療従事者との研修等ご案内</li> </ol> <p>第24回国立成育医療研究センター地域医療連携委員会（紙面発送による開催）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医療連携医登録状況</li> <li>国立成育医療研究センターの活動実績報告（令和4年度第3・四半期）</li> <li>令和4年度院外向け研修会実績及び予定</li> </ol>

8 患者相談の実績

相談を行う場所	相談窓口、相談室、その他（病棟面談室）
主たる相談対応者	ソーシャルワーカー、事務職員□
相談件数	10,338 件
相談の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助</li> <li>2. 退院援助</li> <li>3. 社会復帰援助</li> <li>4. 受診・受療援助</li> <li>5. 経済的問題の解決、調整援助</li> <li>6. 地域活動</li> <li>7. その他</li> </ol>

9 地域医療支援病院に求められるその他の取組 （任意）

（1）病院の機能に関する第三者による評価

病院の機能に関する第三者による評価の有無	(有) ・ 無
評価を行った機関名、評価を受けた時期	公益財団法人 日本医療機能評価機構 病院機能評価項<3rdG: Ver. 1.0> 平成26年5月2日認定開始 病院機能評価項<3rdG: Ver. 2.0> (2019.5.2~2024.5.1)

注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

（2）果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	(有) ・ 無
情報発信の方法、内容等の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホームページ（病院概要、診療科案内、救急受診案内、患者紹介案内、母体搬送・NICU及びPICU転院・搬送説明、公開セミナー・講習案内など）</li> <li>2. ニュースレター「もみじの家」を年2回発行</li> <li>3. 区報などでの公開セミナー・講習案内</li> <li>4. メールで研修、講習会案内</li> </ol>

(3) 退院調整部門

退院調整部門の有無	有・無
退院調整部門の有無概要	<p style="text-align: center;">有 ・ 無</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 退院調整部門は医療連携・患者支援センター内に退院支援チームがある。</li><li>2. 退院支援チームは、看護部専門看護室看護師8名、医療連携室社会福祉士9名である。</li><li>3. 入院前に退院困難要因の有無を確認し病棟と共有。</li><li>4. 入院時退院支援スクリーニングを病棟看護師が実施し、週1回各病棟師長と退院支援チームが入院患者の退院支援要否及び進捗状況の評価を行う。</li><li>5. 要退院支援（退院困難等）と評価した場合には、早期に病棟担当退院支援担当者が患者家族面接を設定し、生活状況や今後の希望等確認する。</li><li>6. 退院支援チームは、治療期間に合わせて退院及び社会生活への復帰が可能になるよう、院内各職種及び地域関係機関と連携を図りながら患者・家族の生活をサポートする。</li><li>7. 退院後も外来にて面接継続し、支援評価及び生活の再評価及び調整を行う。</li></ol>

(4) 地域連携を促進するための取組

地域連携クリティカルパスの策定	有・無
策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容 地域連携クリティカルパスを普及させるための取組	<p style="text-align: center;">有 ・ 無</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 人工呼吸器を装着し、初めて退院する患者用の地域連携パスがある。5件（R4年度）</li><li>2. 退院前訪問看護を実施し、訪問診療医等（在宅医療機関、訪問看護ステーション等）とその症例ごと意見交換を行い普及を行っている。</li></ol>

病院名 国立研究開発法人国立成育医療研究センター